明治廿五年八月三十一日印刷
明治廿五年八月三十一日出版

婦人衛生會雜誌

（非賣品）

第參拾參號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生會雜誌

第參拾參號

目次

講演

◎創傷の恐るへきを説きて會員諸君に望む所あり　醫學士　岡田和一郎君

◎急病救助法
一挫傷
一創傷　各圖解
一出血

衛生叢談

◎動物の壽命及飲食の節度

新報

◎埼玉縣長壽者の數
◎魔睡奇談
◎船病
◎涼氣の製造

雜報

◎如何にせば美人となる
◎レモン及橙の功能
◎喘息病の大妙藥
◎會告

◎本會規則摘要

◎本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開き隨て社會全般の幸福を增進するにあり

◎本會は毎月一回第一土曜日集會を開き諸大家を聘し講義演説を囑し會員は勿論同親族知已の傍聽を許し且之を筆記して毎月會員に頒つ

◎本會會員を分ち終身特別通常學生男子賛成員とす

◎終身會員は入會の節金拾圓以上を收むる者特別會員は毎月貳拾錢以上通常會員は同拾錢學生其他事故ある者は會費五錢とし男子賛成員は毎月拾錢を納むる者とす

◎入會せんとする者は何人を論せず族籍住所姓名を記し下谷練塀町四十三番地本會事務所へ御申込あるべし

下谷區練塀町四十三番地

大日本婦人衛生會

婦人衛生會雜誌第參拾三號　明治廿五年八月三十一日發兌

講演

醫學士　岡田和一郎君

創傷の恐るべきを說きて會員諸君に望む所あり

此篇は同氏の大日本衛生會に於て講演せられたるものなり本會請ふて茲に登載せり

何か私に此衛生會で演說せよと云ふことでござりましたが、私は衛生家ではなく、醫者でありますから、話すといふても病氣の事よりしか他のことを話すは、私の本意でありません故に、自分の專門に關係した問題を揭けて、諸君の淸聽を煩はさうと思ひます。

偖この創傷即ち怪我は、隨分世の中に多いことでありまして、殊に此の怪我と云ふものは、文明の進步して然して種々の工業が興ッたり、或は社會の交通が盛になッたり致しますれば、無論增多するものにて、是れは歷史上に徵して明かなることでありまず、實に此工業が盛になッて來るに隨ッて、昔は用ゐなかッた蒸汽機關を用ゐたり、或はいろ〳〵の車を廻して仕事をしたり致しますから隨ッて或は蒸汽機關の車に挾まれたりして、いろ〳〵昔なかッたところの怪我が出來て來るのであります。又社會の交通が盛んになッて來て馬車が表を走ッたり、或ハ人力車が澤山に來りたり致しますと、隨ッて其走しる馬車や人力車の爲めに、怪我人が澤山世の中に出來て來る、其外亦一層社會が進んで來るに從ッて、人の競爭と云ふものが盛んになッて來る、ッイ此節の例を取ッて見て、日本が立憲政躰になッて、隨ッて諸方で議員選擧の際には又打ち合も始まるだらう、塲合に依ッては斬り合も始まると云ふことを考へて見なければならぬ。ソレで文明の度が進んで世

の中が頻繁の度を增すに隨ッて、怪我即外傷が多くなると云ふは、古今の例に徴して明かなることでわります、ソレで怪我人が世の中に益々多くなッて參りますれば、此怪我に就て世の中の人が少しく見識を貯へて、其時に如何處置しなくッてはならぬと云ふことを考へなければならぬ。衛生會杯が非常に骨を折ッて人々の壽命を長くしやうと思ッても、一方で外傷のことに冷淡でわッたときは、何にもならぬ、故に私は務めて此外傷と云ふことを諸君に申上げ樣と思ひます。

偖日本の衛生事業が進んで參ッたのは、殊に此の大日本私立衛生會杯が與ッて力がわることで、公衆衛生各自衛生二ッながら能く進歩して居ります、故に今は誰とても衣食住を改良しなければならぬと思わぬ者はわりません、又只今も御話になッた水道のことや、衛生工事のことは少々金が掛ッても世人は重きを置きますが、此怪我外傷と云ふとに向ッては、世の中の人が或ハ冷淡ではなかろうかと思ひます。昨年も愛知岐阜兩縣の地震のために怪我人が數千人も出來ましたから、世の中の人が目を注ぎドウか彼の怪我人を救ふてやりたいものだと云ふて、ソレゾレ應分のことを致し、又私も大學の許可を得て當時わの場所へ臨んで私の力の及ぶだけのことは致しましたが、彼の當時には醫者も醫者でない人も隨分盡力してやッた、誠に立派なことでわります、併しこれは一時に澤山の怪我人が出來たから、大變世間の人か驚き且注目したからの結果でわりますが、顧みて世人の平生人を見れば概ね小さな傷などに至ッてハ、氣を付けぬのでわります、其證據にハ私共は外傷の療治を專門にして、外傷患者ばかり相手にして居る醫者でわりますが、一寸と指を挫いたとか、刺を立てたとか云ふ樣な輕い病氣で我々の許へ來る人

は少なくして、大概皆初の起りは切ッたとか挫いたとか云ふ様なことであるけれども、ソレが腫れたり化膿だり、或ハ大變な激しい所の傳染病を起したりして、初めて醫者の所へ訴へて來るのであります、之を見ても外傷に對する所の衛生の思想と云ふものは、世の中の人に大變乏しいと私ハ考へます、成程外傷でも一時に大きい外傷があるとか、或は澤山な血か出ると云ふ様なことがあッたならば、側の者も驚くし自分も驚くから、直に醫者に駆付けて往くが、小さな外傷位なら平生見識のある人でもソレを鄭重にせずして、一寸と膏藥を貼つて置くとか、一寸と塵紙で蔽ふて置くとか、極めて姑息なことを施して打ち捨て置く人が隨分多いのであります。是は私ハ決して其人を咎めない何となれば外傷が大くなくして且血が多く出なければ其外傷ハ直接に其人の生命を害すると云ふ如き、甚だしき禍害がないから當り前であります。併し是れ盲者が蛇に怖じないのと同じことで、縱令其恐れざるハ當り前とするも、恐れざるが爲め屢々不慮の不幸に陥る者があるとなれば、私は務めて今日外傷の恐るべきことを申上げて、ソウして後にソレに就ての御注意の箇條と、希望とを申述べて置ふと思ひます。

偖外傷即怪我と云ふことは、身躰の中何處でも何れの部分でも、何れの機關でも所嫌はず出來て來るものであります、外の内科病等は一定した場所に一定の病氣が來ると極ッて居りますけれども、外傷ハ外から不意の力に應じて不意に出來て來るものであります、故に外傷の恐るべきと恐るべからざるとも、其部分に依ッて大變相違があります。例へば心臟即ち此身躰を養ふ所の血液を送る心臓に、一寸と傷が付いて血が出れば直ぐに死んで仕舞ふ、其外脳髓とか人間の生活するのに直接に關係するところに怪我

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

をしたならば、直に死んで仕舞ふから、斯う云ふ處は成る丈け怪我をせぬやうに最も注意して往きたいものでありますο其他の場所は素より足であらふが、手であらうが、軀幹であらうが、何處へでも怪我が來るのでありますが、先づ幸に即死をしないとするも、頭とか軀幹とかに來る怪我には、最も氣を付けなければなるまいと思ひます、何せなれば手足の力の怪我は、化膿が蔓延し來りて大變に不良の徴を示し、一命も爲めに危からんとするも、若し其手なら手足なら足を切斷して仕舞ふと云ふ英斷さへ施せば、先づ多くは生命に係はる氣遣はなけれども、頭とか胴とかに怪我をして、ソウして其處が劇しく化膿いだしたときは、其胴を切ッて仕舞ふとか頭を切ッて仕舞ふとか云ふ譯には往かぬ故に、四肢より軀幹の怪我に注意をしなければならぬ、ソレなれば手足に來た怪我は切ッて仕舞へば直ちに治るから、化膿しても何をしても餘り注意せぬでも宜しひかと申しますと、決してソウではない、斯の如き怪我でも隨分注意せなくてよならぬ、怪我と云ふても決して、其局部の病氣で其所ばかりに止ッて居るものではなくして、打ち捨て置くならば、ソレからして全身に病氣が起ッて來る、ソウして遂に一命をも落すやうに至ることがあるからして、縱令指先の怪我でも足の先の怪我でも、皆其局部に止ッたときに充分に注意して、ソウして全身に及ばぬやうにしないと、隔ッたる所の場所にある怪我でも大變に危險なことがあります。

偖ソレでありますからして外傷は機關と、ソレから場所に依ッて多少重きと重くないとの差がありますけれども、怪我と見たならば危險である、若しやり様が惡るければ命をも失ふと云ふことを心に思ふて居たならば、過はなからうと思ひ升。外傷の恐るべ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

きはドウ云ふ點にあるかと申しますと、先づ第一に出血です、皆さんも御承知でありましやうが、人間の身躰を養ふに必要なものは血液でありまず、ソレで血は人間の身躰の目方にして較て見ても、身躰の重さの十三分の一、ソレから子供ならば十九分の一であり升、而して初生兒は僅かに數立方仙迷血を失へば斃れ、一才の兒は二百五十瓦の血を失へば死し又た大人は其半量を失へば生活し難しとは、生理學者の唱ふる所にして、稀れに脂肪多過の人や老人や又た弱き人は、尚は少量の血を失ふて死することがあります、兎に角血液は身躰の一部を占めて居る所の、生活上必要な品物でありますが、此血と云ふものは動脈管を通ッて、身躰の端から端まで行き渡ッて居る所の液躰でありますから、若し一と處切ッて管に穴が明くならば、其處から血がドン〳〵出て仕舞ッて止まらぬのであります、ソウして此血液が出て止まらなければ、其怪我の爲めに死ぬのであります、實に小さな傷ならば隨分自然に止まることがあるけれども、稍々大なる血管を切ッたときに隨ッて相當の手當を施さなければ中々止らぬもので、非常な壓力を以て出て來るのでありますからして、血液を非常に失ッて急性の貧血症を來たし忽ち死することがあります、是れは最も怪我をしたときに氣を付けて血の出ない工夫をしなければならぬ、併し是は皆さんに望まないでも、隨分血と云ふやつは、素人で大變恐れる奴でありますし、又子供抔は痛くもなんともなくッても血を見たら泣き出す位で世間では怖いものとなッて居り、そんなに重くなくっても大變重いものと思ひ直に手當をする習慣になッて居ることであります、是れ實に結構なことであッて、ソレがため外傷を忽せにしないと云ふ結果が來ります。故に此點は私は深く言ませぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第二の恐るべきものは何かと申しますと、第二の恐るべきものは感染です、傷口から種々の病毒が這入ッて而うして傳染病が起ると云ふ事です、總べて此宇宙間は空氣があッて、空氣の中には種々様々の有機体バチルレンとかミクロコッケンとか云ふ様なものが飛廻ッて居る、而してソレが生活するためには、人間の肉に備へたる如き液体や、一定の温度を要するものでありますから、此宇宙間を飛び廻ッて常に如斯場所を尋ねて居りますから、人間も優勝劣敗の原則に随ッて、ソレに負けない様に皮膚と云ふものが、人間の身体に出來て居る、皮膚は角質で角のやうな極く堅く出來て居るものであります、丁度人間の皮膚は城壁の様なもので、若し此城壁の間に隙があッて其處から襲ふところの途が出來たならば、有機体はそこから這入ッて來る、併し皮膚即ち城壁が堅くッて隙の存せざるときは、其身体は何程澤山の有機体から襲はれても、甚だ安然であります、即ち外傷は皮膚の一部が切れて、ソウして肉が現はれたを云ふものなれば、恰も城壁に間隙が出たと同じことであります、故に此場合に於ても、吾人は宇宙間にある所の有機体即ち病毒の這入るべき途を拵へてやッたものでありますから、決して安心は出來ませぬ、未だ病毒が這入ッて來なくも打ち捨て置たならば、早晩病毒が這入ッて來て其病毒の勢を逞しうして、身体に害を來すといふことを考へなければならぬ。

偖て此宇宙間に居る病毒はどんなものが多いかと申しますと、之はいろ〱あります、ソレが爲めに一寸とした突き傷とか切り傷とか云ふやうな小さなものであッても、其病毒の襲ふ所となッたならば、色々の重き病氣が續發して來るのであります、極く一番軽いのでありますと、直きに膿が出來てソレから

又ソレが激しくなりソレが皮膚の下へ廻りて、所謂蜂窩織炎を起して遂に腕ならば腕一本か腫れて來り或は又丹毒と云ふて、皮膚の焮衝が起ッて大變に熱が出て、ソウして仕舞にはソレがために死ぬる樣なこともあッたり、ソレから膿毒症と申して膿が血液の中へ這入ッて、ソウしてソレが身体中へ廻ッて大變高い熱が起り、敗血症と云ふて矢張いろ／＼腐ッた所の品物が血液の中へ這入ッて來て、又危ふき熱症病を來したり、其種類は澤山ありますけれども、創傷から感染してソウして熱が出るようになッては全身の病氣でありますから、指の先きに一寸と針を立てたといふやうな小さな外傷であッても最早一命をも危うする位の大患になッたのであります、ソレで私は前に申した通り、日本の外傷者を見るに大概は新しきものは少くして、多くは化膿して熱が出たり或は腫れたりしたやうな容体のものであります、昨年岐阜愛知に出張して見ましたが、素より狼狽して居るから無理はないけれども、傷があッて一向ソレに注意せぬ、外から來る病毒を防ぐ杯とソンナ事は考へる暇はないものだからして、指の傷も足の傷も皆膿が廻つて居る、併し自分の家が倒れて火事になッて財産上の不幸は此上もない有樣なるに、之に加ふるに尚ほ自分の命も危い樣な憐れな位置に立ッて居る者が澤山ありましたが、是等は皆外傷の恐るべき實例であります、ソレ故に昔しから隨分外傷を療治する人は、外から病毒の這入らぬやうに防ぐことが一番大事であると考へて、此ことに重きを措き隨て澤山道具も金も費してから諸方で研究したのであります、實に此外傷は其もの自らがソンなに恐ろしいことはない、假令病氣が這入らんとせしも尚ほ良く之を防ぎさへすれば、命を取られるやうなことは滅多にない、看よ諸君我々が療治する爲

めには、腹を剖いたり頭の中に穴を穿ちたり、腕や脚を切斷したりすることは、毎日やッて居るのであります。世間の人が剌を立て或は針を立てたる如き傷に比ずれば、大變大きな外傷を作りて居ります、然れどもソレは世間でやるのと違ひ、病院等でやるのは縱令腹を斷ち剖ッても頭を剖いても、決してソレが爲めに化膿を來すの生命を取るのと云ふことはなく、却て之れで病氣を治せしむるのであります、ソレだからして空氣の中には病毒があるから、外傷の所から病氣が這入るといふ考を以て居つて、工夫さへ運らして置いたならば、如何なる大きな傷が身の中に出來ても決して恐るゝことはない、然らバ何故に我々醫者が拵へる所の外傷は斯の如く安心にして素人の拵へるのは不安心なるやと申しますと、既に前に申したる通り、是れは空中の病毒が這入ッて來ると云ふことから推して來て明瞭であります、即ち醫者のやる方は病毒がやッて來ても、病毒が死んでしまうようになし、即ち彼れが死するべき品物で、外傷と空氣との間に界をして置き以て城壁を破らせず、却ッて城壁を固めて居るから安心なのであります、即ち其法は今日専ら世間の外科醫者の用ゐて居る所の防腐法と製腐とによつてやッて居るからであります、即ち防腐と製腐の法は外傷に於ても亦た最も衛生上必要なものでありまして、外傷衛生は防腐と製腐とに止まるものと云ふても惡くなからうと思ひます。

ソレで外傷衛生の最も必要なるところの防腐とソレから製腐の法は、醫者の方でやることであるから、之は精しく申しませぬが、其大体を言へば世間でやる石炭酸とか、或は昇汞水とかで創面の病毒を殺し、而して其品物の付いて居る物を以て、傷口を蔽ふて病毒の竄入を防ぎ、ソレで始めて其目的を達

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

するのでありますが、我々が大きな傷を拵へても其成績が大變宜しいに拘らず、世間の外傷は概ね感染すると云ふは、一に之を注意せざるに因るのであらうと思ひます、即ち世人が怪我をすれば先づ血が出れバ直らに醫者に駈け付けるけれども、血が出なければ痛くはないから見せるに及ばぬとか、或は赤くならぬからして抛擲して置くとかするが、併ながら傷となッたならば、縦令痛みはなくとも、腫れて居なくッても傷に違ひないから、注意をするのが創傷衛生なのであります、丁度我々健康の人が通常の公衆衛生法を守つて衣食住を注意してソウして長生をえたいとか、病氣に罹らぬやうにしたいとか云ふことを、孜々として務めるのと同じことで、痛傷が出たり其處が赤くなッたり腫れ出したりして、始めて醫者に駈け付けては事既に遲いのであります、傷といふものは本來痛もない又赤みもないものにて其

痛みが出ると云ふときは、既に病毒に感染して身体中へ病毒が廻らんとし或は已に廻ッたときでありますから、痛みが出たり赤くなッたり腫れたりして、初めて醫者に往くと云ふのは、人が衛生法を守らずして遂に病氣に罹り初めて、周章て醫者に駈け付けて往くと同じであります、私は思ふに如何なる醫者でも場合によつては、創傷から來た病は救うことは出來ぬかも知れぬ、今日の醫術に於ては膿毒症敗毒症に罹ッたのを救ぬ術は乏しいのでありますから、其時に至ッて彼是言ふた所が時が遲いのであります、夫れ故に此處の點に於ては、世間の人の見解が大變に違うだろうと思ふ、痛くないから打ち捨て姑息の法を施して置くと云ふ様な考では決して創傷の衛生と云ふ目的を達することは出來ずして、大に不幸に陷る場合が澤山あるだらうと信じます。ソレで今日は其傳染性の病氣の種類を一々申上げ様

と思ひましたが、大變長う御ざいますからして、唯最も世間に多くして最も恐ろしい所のものを二ツばかり申して置きます、只今申した皮膚即ち城壁が破れて其處から這入ッて來る病毒にドンなものがあるかと云ぬに先づ第一に能く見るのは丹毒と云ふのであります、是は極く小さな傷からして焮衝が起つて大變赤くなる、ソウして熱が出て大變痛む處の病氣であります、殊に床屋で鼻の毛を刷ッたりする時分に極く拙ない床屋ならば時々怪我をする、其怪我を打ち捨て置き病毒の這入を來して忽ち丹毒が起ッて來り遂に腦膜炎に罹ッて最早救ふとが出來なくなることがあります、私も斯の如き實例を已に三四回も見たことがありますが、實に經過の早い所の病氣であります、併し丹毒も若し身体の他の部分で經過が早くなくして、且頭の中に侵して行かぬ所の丹毒であッたならば、今日我々の施す治療法にて多くは救ふことが出來ますけれども、頭の丹毒であッて急に腦の中へまで侵して往くやうでは、不幸の極度に陷ッたものでありますから去て致し方がありませぬ。隨分世の中に斯う云ふことが、澤山あらうと思ひますから御注意あらんことを望みます。

ソレから又第二は破傷風であります、之は日本には割合に少ない樣だけれども申して置きます、此間神田の火事のときに一寸と足を車で傷けられ而うして土がついて居たけれども、自分の家が燒ける騷ぎだから抛擲して置いた所が、三日目になッて破傷風になッて筋肉が釣り張ッて飯を食ふことが出來ず、又熱が出たからと云ふて病院に連れて來たところが最早時已に遲く一日經て死んで仕舞ひました、之も矢張り病毒は外部から這入ッて來て而うして病毒が蕃殖をして、遂に立派な破傷風といふ殆んど救ふことが出來ぬ病を起したのであります、小さな傷を注意

して泣きさへすれば、家を焼かれたる上にトウ〳〵命まで無くなッたやうなことはないのであります、夫れ故に先づ世間で創傷と云ふことがわッたならば、先づ熱も出ず痛も起らず何にもしない中に、傷所と空氣との關係を絶ッて仕舞ひ、病毒が皮膚から襲ふて中へ這入ッて來ないやうに工夫を運らさなければならぬ、其法は世間のお醫者様が皆知ッて居りますから、若し世人に外傷と云ふことの不幸に遇ッた人があッたならば、務めて醫者に掛ッて早く繃帶を掛て病毒等の竄入を防がなければなりませぬ、前に申したる通り熱が出たり痛を起したりして、初めて醫者に駈け付くるやうでは既に晩うござりますから、諸君は斯の如き事のなき様に注意されんとを希望致します。

（完）

急病救助法

人若し急變の不幸に出付ましたときは之に向ッて、最も急なる救助を施すことは實に緊要にして缺く可からざることで、迅速に醫者の療治を要することは勿論でありますが、醫者の未だ其場に來らざるよ、已に既に不治の病氣を牽き起し、或は生命を殞す者世の中には少くありません。此時に當り適當の救急方法を施し、之れが起死回生を謀るは切に希望して措かざる所であります、今序々と追ひて俗人の施すべき諸病の救助法を述べようと思ひます。

挫傷

挫傷とは或る物体と衝突り、或は棍棒をもつて毆打たるゝとか、或は身体の上に重き物の落ち來り或は高き場所より低き處に落ち顛倒するによりて起るが如きものであります。

若し挫傷によりて重要なる内部機關即ち、腦髓、脊髓、肺臟、肝臟、及び其他の內臟、に振盪を受け

たる時は甚た危險であります。例之ば腦髓、震盪すれば眩暈、氣絶、嘔吐を起し、肺の震盪は血を吐くこと、其内臓の震盪は腹痛、嘔吐、氣絶を發し、又時としては爲めに即死することがあります。

此の如き場合に遭遇するときは、醫者の來るまで左の所置をして置かねばなりません。

第一　速に醫者を招くこと、

第二　凡て究屈なる衣服を解放すべきこと

第三　負傷者若し顔色蒼白く又は氣絶せしものは、頭部を低く下げて平に臥せしむべきこと、

第四　負傷者若し脈を搏つことを感せざるときは、冷水を面部及び胸部等に灑注すべきこと、

第五　醫師の住居遠きためか、又は不在なりしときは、注意して患者を醫者ある所に送るべきこと、

但挫傷后直ちに患部を繃帶し、其上に氷り嚢をのせ、或は冷水を濕したる布片を以て、寒冷法を施すは適當の處置であるゆへ、醫者の命令を待たず行ふも素より差支へなきことであります、

創傷

創傷に附ては岡田醫學士の御話しの如く不潔は甚た危險なるものゆへ、創の上には綿撒絲、絆創膏、及一回用ゐたる海綿、及び不潔なる布片等を、觸しめてはなりません、又不潔ない脂の如きも同樣であります、創口に砂や塵、泥土などの附いて不潔なるときは、清水をもつて創口及び其周圍を洗らひ、極めて清潔なる白布を以て拭ふをよしと致します、ソレで清水、海水、及び河の水などは、時宜に應じて之を用うるも亦惡るくはなりませんが、一回沸立たる

ものは含むところの腐敗物がありませんから、益々良ろしいと致します。

創口を洗ふに完全きものは清水中に、防腐薬(石炭酸水)或は(サリチル酸水)或は(硼酸水)を混せ用ゐるを最も良しとします。

苟くも一家をなすものは、常に此防腐薬一瓶を貯へ前以て不時の用に供へたいものであります。

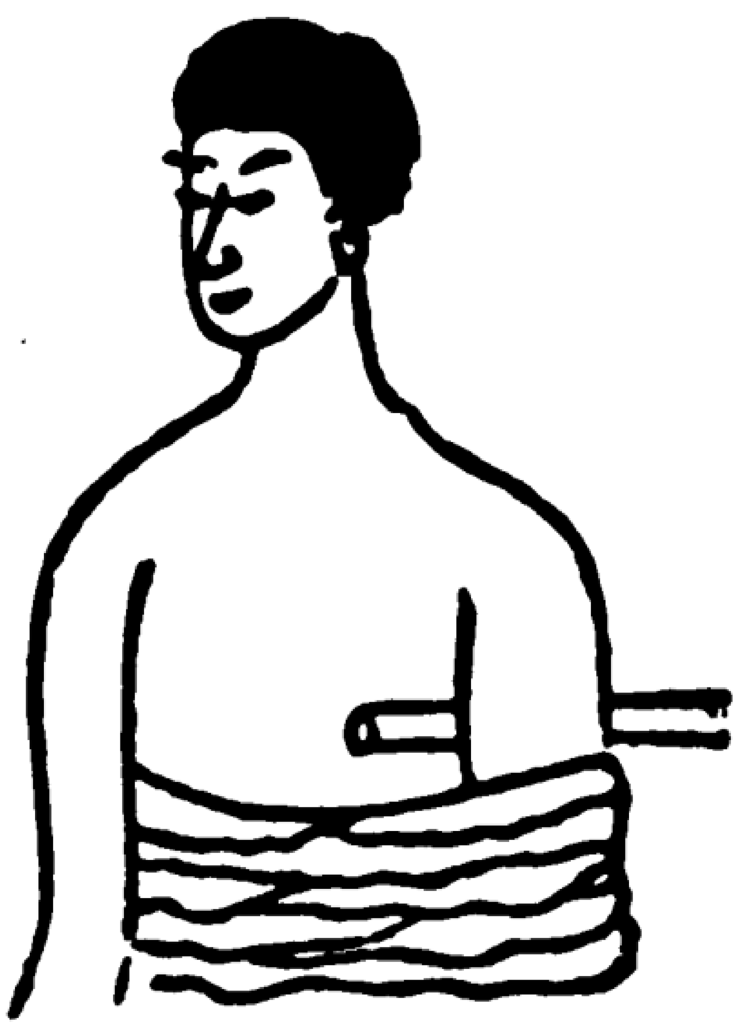
さてよく創の處を洗ひ、次に清淨なる防腐薬に浸せる、布片をもつて繃帶なとせば、醫者の來るまで敢て患者を害するの恐れはありません。

出血

凡そ創傷は其種類にかゝわらず、皆脈管を傷めるために起るものにして、若し血の出づること極めて弱く創口より流れ出づるときは、只小いさき脈管の損傷にして、赤黒色の血の同じ速さをもつて流れ出で、殊に創の面の上の部分を壓すときは、其勢ひいよ〳〵甚しきときは、大部脈の損傷である、然れども鮮やかなる紅き色の血の樂々迸り出るは、動脈の損じにして、生命にかゝる危うきものであります。

小さき脈管の損傷、或は靜脈の小量なる出血は、多くは創の上を壓へ附ければ、或は自然に止るものである、若し創口大なれば創の上の部分において動脈の幹を壓し附け、其負傷したる所を高く擧ぐれば、出血はおい〳〵靜になるものにして、後衣服を剃刀の如きものにて切りひらきて改ため決して妄りに衣類を脱してはなりません。

凡そ人の身体の中動脈のあるところ。最も近くして易容く之を壓へ附くる部分ありて、これは血を止めるには緊要なるところでありますから其圖を挿入致して置きます。



動脈ヲ壓ヘ血止スル圖

又は

上膊にては内側には袖(洋服)の縫ひ目の在る所にして、胸と膊部の間小さき杆をはさみ強よく之を壓し縛るべし、左すれバ出血は直ちに止るものであります。

大腿部にては股の中正の部分を壓へ附け縛るべくすべて血を止めるには弾力のある護謨紐の如きものを以て、出血の上部を縛るをよしとし升又急なる場合には鼻拭の如き者にて強よく縛り血の止るまでねぢるもよしとします、けれども弾力性の優れるに若したものはありません此理により芳賀醫學士は弾力性ツボンツリを造りました。

股ノ中正部ヲ縛リ血止スル圖

又頸部分にいては頭首を后方に反張するときは喉頭の高くなりたる兩側を、斜めに上の方に向て筋の緊張る所があります、頸動脈は其間にあるをもつて其邊を壓え附くれば血は止まるものであります。

頸部ヲ壓迫シ止血スル圖

右は醫者を呼び來るまで俗人の處置すべきことであります。

衛生叢談

動物の壽命及飲食の攝度

有名なる動物學者故ファラデイ氏の説によれば、人間の壽命ハ少くとも一百年を繼續すべしと、而して

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

其理由とするところを聞くに、總べて動物の壽命は發生期の五倍を常とす、例へば駱駝は八歳にして華尾し、馬は五歳、獅子は四歳、狗と兎は一歳なり、而して其壽命は各々其五倍にして、駱駝は四十歳、馬は二十五歳等なり、然るに人間の發生期は廿年迄なれば、其壽命は右の五倍即百年ならざるべからずと、又氏は人間の生活を四期に分ち、二十年迄を幼年期とし、二十年より五十年迄を青年期とし、五十年より七十年迄を壯年期とし、七十年より百年までを老年期となすべしと說けり、之れ皆養生の良否に依つて然るなれば諸君姉百年の生命を得んと欲せば、身躰の攝生飲食の節度を忘れ賜ふな。

昔足利氏の世に一人の割烹夫がありまして、年は、や七十を過しましたが、尚矍鑠と壯健でありまして、壯者に劣りません、人が不思議に思ひまして此人に聞て申しますことに、那方は何の妙術がありて左樣にイツ迄も御壯健でいられますか、何卒御聞かせ下さいましと、老人對て言ひける、は別段術も法もあることではありません、只私くしの職分として、每日料理のことを致して居りますから、多く鳥類の胃の腑を驗まするに、鴨や鵞はイツでも腹一ぱいに食物が充ちて居りますが、之に反して鶴を驗まするに、イツも食物が七八分でありまず、是をもつて見ますれば、鶴は千年龜は万年と稱へまして長生をする譯でありましやうか、私は心私かにこの事を盟ひ、飲み物食ひ物共に七八分に控へて居りまして、今でも其分量を渝へませんが、之れ私の長生をする所以でありましやうか、熟々世の中の人を見まするに、味甘ものがあれば牛馬のように食ひ、粗食い者のときは腹の飢へるのも顧みず、其上時間は不定限にて或は三食をなし、或は五食するが如き、實に消化の常を失ひたるものにして、尤も身体に害わり、子之を

謹めよと、其人（ハヽア）成程と言て退ぞきましたといふことであります、又或處に血氣盛んの若者二人一堂に會食して、各々其分量の多きを自慢しておりました、傍の人之を止めて言ひけるは、卿等暴食することは御止めなさい、暴食するのハ生命を伐る斧であります、寧ろ何にも食はざる方が却て宜敷いと申しましたが、一人は之を聞き大に怒りて申しますことに、咄、汝不食の優るとハ何事ぞ、食ハずして終日勞働したならば、何を以てか身体を保つことが出來ようか、出來んだ而るに汝此言葉を發す、ヨシ明日共に食と不食との孰れが優れるかを驗せん、汝固辭することなかれと、傍人も止むを得ず之を承知して言けるは謹んで命せに隨ひましやう、其代りあなたは一日飲食をなしで休んではなりません、私は終日勞り業をいたしましやうと、明るを待ちて一人は酒飯魚羮を携へて堤に上り欣々然たり、一人は耒耜のみを提へて田に入り、食ふものは手に盃や箸を釋ずして食物を胃に送り、耕すものは食はずして身体手足を勞働す、日沒に至りて之を驗するに一は滿腹のため腹太鼓の如く、動くこと出來ずして遂に生命を失ひ、一は困疲たりと雖ども數日にして又元に復することを得たりと、兩者共に極端のはなしなりと雖ども、又慮るべき一端なり。

新報

埼玉縣下に於ける長壽者の數

同縣に於ける昨年十二月三十一日現在長壽者の數は八十歳以上男二千八百九十四人女四千四百四十三人九十歳以上男七十一人女百六十四人百歳以上の女三人なりしと。

魔睡奇談

世の中の文明に進むに從がひ、百物皆面目を改むるに到りたるが、中にも醫術は第一番開けて病を治することは恰も神の如く人をして遺憾なからしむるまで進みぬ、其療治の仕方も神變不思議にして特に外科醫の如きはよく魔睡劑を用ゐ、瞬く間に傷を縫ひ病根を洗ふなど實に目を驚かすことにて、耆婆扁鵲も地下に之を聞かば目を丸くして逃げ出すならん、其魔睡劑を用うるに當りて茲に一の面白き話あり、一たび患者に此藥を施せば分秒を經ざるに、患者は眠るが如く死したるが如く、忽ち病の苦しみを忘れ仙境魔界に遊びたる心地となり、今の我あるを知らず意識の知覺を失ひ恍焉惚焉としていろ〳〵樣々の囈は言を吐き、傍の人を笑し、或は驚かすことあり。此時患者には譏譽褒貶の念なく、如何なる英雄豪傑も如何なる痴愚奸物も、只蠢爾たる一物となる。されども、常々腦裡に思ひおることは依然として忘るゝことなく、此の恍惚りとして居る間に、偶然と浮び出で、終に一場の囈語となる。その言ふ所を聞けば或は儼然たる髯ムシヤクシヤ恐るべきの男子にして忽然都々逸端唄を唸り出し、或は藝妓を挑むが如き、ベト〳〵極まりたる鼻の下の長さを聴聞することあり、喃々として妻君に家政の儉約を說ものあり、口の先に蟹の如く沫を飛ばして政治を談ずる人あるかと思へば、高利貸に借金の言譯をなして顏を顰むるあり、或は婦人にしては子女に小言を言ふものあれば、下女に燒き芋の使ひを言ひ附くる貴婦人あり、又十年前の事を口走りて我が秘事をしやべるものあれば、大泣に空涙をこぼし金を無心して俳優に注ぎ込で密事を自白する校書もあり、千差萬別各々皆我が腦中に覺えあることをさらけ出して一場の奇談を開くにあり、茲に最も可笑しくもあり且氣の毒なる

は、某病院にありし話しにして、一日痔もちなる一婦人の治療を乞ひに來るあり、餘程の重症にて尋常一と通りの療治にては不可なりと見て取り、療治の節は良人の立ち合せられよと、雙方承諾の上にて療治に取りかゝりたり、醫師は之に例の魔睡劑を掛けたるに、見る間に婦人は夢中となり生体なくなりしが、忽ち種々なる囈言口を衝いて起り、果ては嬌めきたる言葉喃々として間夫と密會の事に移り、我が良人のことを目の前にて惡しさまに罵しりホントニ男は貴君に限る！、なんのかんのと喋舌り、つゞいて又今にも折もあれば貴君の家へ行くほどに何日約束忘れずに急度女房にして下さいなど浮けたることを繰り返すに、傍なる醫師は良人の手前氣の毒に堪へずよき、程に治療して其日は濟みしが、日ならず全快して翌日退院といふ前の日に良人なる人篤と不義の實否を尋ねたる上、妻の不埒なることを申し述べ家には引き取らず、病院より直ちに里方へ歸したる由、此外樣々なる事を口走りて人にも迷惑をかけ、我もまた當惑するものも少からざるよし之を見ても其平常を愼むべきことは、最も肝要にして、處世の上に於ては常に愼重に愼重を重ね、假初めにも猥りがましきとや、輕忽なることを誡め、一言一行忽がせにすべからざることなり。

船病

船の動搖によりて目暈するは、質に不快なる病なり、殊に船の水平横軸に動ごくときは、水平縱軸に搖くものより、更に惡しき氣色を感ずるものなり、此の時に當りては水平の位置に臥せしめ、氷片幷に「シヤンパン」を飲ましめ、同時に上陸すべき港の近よりたるを以て慰むるをよしと或る洋人の醫家は言へり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

涼氣の製造

北米合衆國都府の住民は、電氣は勿論、蒸氣、温湯及び冷水等の供給を受くることを得るのみならず、セントルーイス府の如きは盛夏の候に際し、涼しき空氣の供給を受くることを得べく、現に同府には人民の居宅及製造所のため、特に人造涼氣の供給所を設けたる由、此涼しき空氣の製造の液状の安母尼亞を用ゐて、空氣を清涼ならしむるものにて、此清涼なる空氣を特製の機械にて、筒の管に驅い入れ各所に供給るの装置なりといふ。

雜録

如何にせば美人となり得べき

米國にて美人の稱あるミラー夫人の姉妹なるゼ子ス孃は云へり、婦人の醜美は生れ付きにも由るなれど、十中の九人迄は怠惰と不注意の結果ならざるはあらず、何れの婦人にても尤も美となり得る原素中すこやかなる眼光、清美なる皮膚、麗顔なる容姿、健全なる健康は、皆その注意によりて作り得べし、ゼ子ス孃も元と猫背中の醜婦なりしが、今は矢の如くなる直ぐなる背と、櫻色なる頬と、唇と麗はしき風容は、美と稱して耻かしからぬを自信すと云へり、

美人となるに

第一　必要なるは已れに適したる色合、縞からの衣服、装飾を着ることは言を待たざれど、

第二　に必要なるは充分の睡眠なり、睡眠は皮膚の光澤を美し、眼中を爽清にするの妙あり、

第三　は消化し易き食物を一日三度を限り多量に食すべし、

第四　は屢々入浴して皮膚を摩擦をすべし、

第五　は即ち運動を怠らざるにあり美人を以て称せらるゝ婦人、半ばはその起居動作に注意するを怠り遂に其習ひ性となりて其美を失わざるに至らざるはなし、以上の方は易くして誰にも行ひ得べければ世の美人となりたき人は試らるべし。

（婦風會雜誌）

レモン及橙の功能

レモン及橙類の如きは用ゐ方によつて種々功能あるものなりとて聞がまに〳〵玆に記るせり。

第一　レモン及橙實に極く少し砂糖を加へ、これを水呑の内に絞り込み毎日飲めば胃の作用を健にして、大に消化を助くるものなりと。

第二　髪の毛の多く抜け落ちる時は、レモン及橙の絞り汁を付けて効ありと。

第三　夏日其絞り汁るを顔手足などに塗り、之を清水湯にて洗ひ落とすときはよく日に焼けるを妨ぎ総べて色を白くするものなりと。

但其節顔を洗ふ時は石鹸等を用ふべからず、

第四　牛乳六合ばかりの中に、（レモン）一個の割合に其汁を絞り込み、朝晩之を顔に摩り付くれば又其顔色玉の如く奇麗になるべしと。

但之を製するには、牛乳の清潔なるを撰むべし。

第五　又右絞り汁を「リスリン」の中に絞り込み、夜臥床に入る前に手に摩りつけ、翌朝その手を湯にてよく洗ひ落し、後又更に交りものなき絞り汁二三滴を摩り着くべしと。

第六　蜂其他の虫類に刺れたるときは、其所へ右の絞り汁を着くれば其痛みを和らぐべし、又頭痛を病むとき髪の邊へ摩り着くるも其効ありと。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第七　靴ずれ又は、たこ等の出來たるとき湯に入りて後此汁を塗附くればよく其痛みを去るものなりと。

○○○○○

喘息病の大妙薬

チト睡氣さましの笑ひ草の様なれども、地方の新聞紙に掲載せるまゝ茲に掲げて一粲に供す。

鹿兒嶋にて喘息病を治する妙薬として傳はるものは先づ左の如き（賣り切り証書）を糸瓜に縊り付け、シッカリと抱いて寐て、翌朝錢三文を添へ、海或は河へ投じて跡を見ずして立ち戻るときは、喘息の直ること受合なりと云ふ（ドーダカ）

一喘息賣切證書

右は是れまで私持病に候ところ此節其方へ賣切り候依て此段賣切証書一札如件

何年何月何日　何　誰某

糸瓜殿

讀書時の注意

書物を讀む人の心得に就て米國の大家リンコルン氏の說を得たれば茲に掲げて讀書の參考に供す、

一讀書中は時々天井を仰ぎて眼を休むべし。

一燈火を用ゐるもチラ〳〵する光は不可なり。

一書籍は眼より十五インチを隔てゝ讀むべし。

一太陽の光線入り來る机の上にて讀書す可らず。

一書物を讀む前面には物を峙立すべからず。

一書籍は眼と並行せしむべし。

一讀書の節首の周りは寛かなるべく、又身躰も同様たるべし。

一讀書室の温度は中度たるべし、足は温かにして

乾燥たるべし。

一 燈火其他の光線は左の方又は前面より引べし。

一 朝飯前又は大食後は多く讀書せざるべし、

一 日沒の際小暗き時、又は深更に及んで讀書すべからず。

一 病後にて讀み過ごさゞる樣注意すべし

本會錄事

◎本月中本會入會の會員左の如し

特別會員宮本たく子の紹介により

神田區駿河臺北甲賀町十四番地　秋元宗子

右同人紹介

同北甲賀町六番地　戶田愛子

右同人紹介

赤坂區青山南町三丁目三十五番地　井上柳子

會員增田はな子の紹介により

本鄕第一醫院　三浦まさ子

○右同人紹介

同第一醫院　佐藤くに子

◎本月中會員轉居左の如し

芝濱松町四丁目五番地へ　平井光江

芝神明町二十五番地へ　山崎幾代子

高輪南町十八番地へ　後藤雪子

同吉町十番地へ　浦島さた子

上六番町二十五番地へ　天野群子

上二番町四番地へ　三浦とき子

牛込二十騎町二十六番地へ　秀嶋千代子

神田淡路町二丁目四番地へ　本多文子

同今川小路二丁目十二番地へ　岡田しつ子

下六番町四十八番地へ　穗積夫人

神田臺所町八番地へ　朝夷けい子

茨城縣鹿嶋郡鹿島町へ　布施正顯

神田三崎町三丁目一番地へ　伊藤喜美榮

牛込市ヶ谷柳町二十七番地へ　赤司綱子

正誤 會員土屋はな子ノ宿所ハ千葉縣山巴郡山田村ハ池田村ノ誤植ニ付茲ニ正誤ス

◎地方赤痢病景況

◉熊本縣赤痢

熊本縣赤痢病流行の大概を略記せんに、同縣の如きは年々歳々患者の數を增し、病毒は既に縣下一般に蔓延し、遂に今日の流行を來すに至たり、其流行の原因は最初患者の同病を蔽ひ隱すこと、患者の交通を絕たざりしこと、蚊、蠅、及十二三歲の男女前驅下利をなしつゝ、游泳をなし河流に病毒を散じたるにあり、斯くの如くにして四方に傳染し、今や一市十五郡至る所に患者あらざる地なきに至れり、その流行甚たしき地方に於ては一家にして五六名枕をならべ、或は一町村軒を連ね、毎戸患者あらざるはなきもの數ヶ村あり、斯の如き流行劇しき町村は、前數年流行を免れたる地に多く、又山のある近傍の農家に盛にして海に浴ひたる漁業者には甚だ稀なり、殊に地面の貝砂等より成れる洲の如き土地には、他より傳染し來る患者あるも流行するに至らずして止むといふ、其病症は槪して良性にして經過二三週間を出です中には一週間にて治癒するものあり從ッて死亡の比例は患者百人に付十三人余にあるたと云ふ、

◉市郡患者表（八月七日調）

市郡名	患者	死亡	全治
熊本市	一五三人	二〇人	八九人
飽田郡	六三四	六九	三三九
託麻郡	一一四	一六	三九
宇土郡	六八	一一	三一
玉名郡	三五一	五六	一五一
山鹿郡	六八	一四	三八
山本郡	二二八	三〇	一四〇
菊池郡	九八	一七	三一
合志郡	四一五	四六	二二四
阿蘇郡	二九四	三八	九八
上益城郡	九五	一五	四三
下益城郡	一六	六	三
八代郡	九一	一一	六五
葦北郡	七二	一五	二六
球磨郡	二一	二	九
天草郡	一八八	三七	一〇一
合計	二、九〇六	四〇三	一、四二七

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎大分縣及佐賀縣赤痢

大分縣に於ける、本月七日より同十三日に至る一週間の屆出に係る赤痢患者は、總數六百九十八人なりしと。

佐賀縣に於ける同患者は本月七日より同十三日に至る一週間總計は、四百五十一人内死亡八十一人にして、初めて發せしよりの總患者は千三百七十一人死亡二百五十二人全治四百十九人なりしと。

◎大坂府傳染病

大阪府下に於ては未だ流行地といふ程にあらざるも、大底一日患者平均二十名を出入せりと云ふ、而して本年一月より六月までの患者は十九人なりしに、其後本月十八日に至る患者を併せ算ぬれば七百八十七人に及べりと云ふ。

◎東京府傳染病患者

本府の傳染病患者は去る二十一日實布的里亞 男二人 女三人 痘瘡 男一人 女人 腸窒扶 男九人 女七人 赤痢 男三人 女〇 なりと云ふ。

◎東京一周間出産死亡數

東京市十五區に於ける本月二日より同八日に至る一周間出産屆出數は、總計五百一人内男二百六十九人女二百四十三人外死胎出産六十三人にして、死亡屆出數は總計九百十一人にして内男四百六十五人女四百四十六人なりと云ふ。

◎全國虎刺列病患者

本年一月以來七月迄の全國患者は、總計百二十名にして死亡せし者二十名なり昨年の今頃に比すれば殆んど三分の二なりといふ。

NOTICE

◉地方の方に告ぐ

會費御未納の方は至急事務所へ御送附下され度爲替は總べて下谷郵便局宛に願上候

東京下谷區練塀町四十三番地
發行所　私立大日本婦人衛生會
東京麴町區三番町六十七番地
編輯兼發行人　嚴本善治
東京麴町區上二番町十八番地
印刷人　八木吉六

明治廿五年九月二十日印刷